

リソグラ印刷のデータの作り方



■ 対応ソフトウェア / ファイル形式

Illustrator / Photoshop / 手書き原稿

.psd .jpg .pdf

※その他ソフトウェア、ファイル形式をご利用の方は事前にお問い合わせください。

■ 印刷に最適な解像度

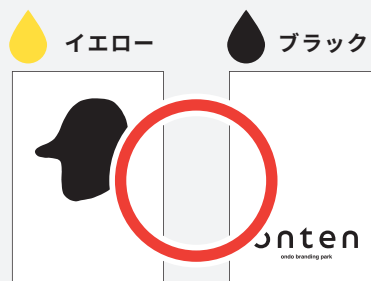
300 ~ 600dpi

■ 入稿データは、1色1版で作成

CMYKを掛け合わせる一般的なフルカラー印刷とは異なり、インクの一覧から使うインクを選び、インクごとに版を分けたものを黒1色(グレースケール)のデータに変換して入稿します。原稿の作成方法はいろいろありますが、「多色刷り」の入稿データの作成例を掲載します。



分版せず
カラーで作成



インクごとに分版して
モノクロで作成

■ データ作成までのフロー

カラーで作る

分版や混色は考えずに、まずは印刷したいイメージをカラーで作ってみましょう。

インクと分版

どこをどのインクで表現するか整理しつつ、インクごとに版を分けま

黒に変換と 濃度調整

グレーの濃度が印刷の濃度に反映されるため、濃度を調整します。

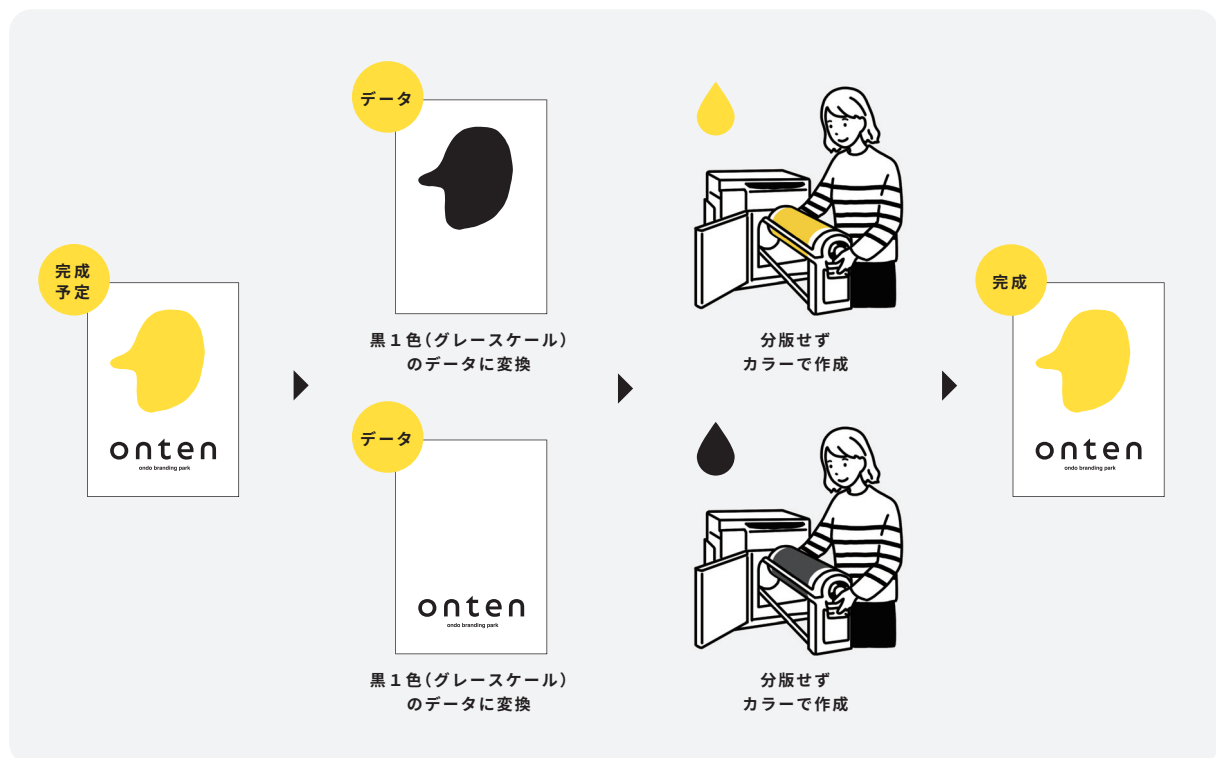
塗り足し 文字切れ確認

デザインが安全ライン内に収まっているか、塗り足しはあるかを確認します。

■ 1色印刷の場合



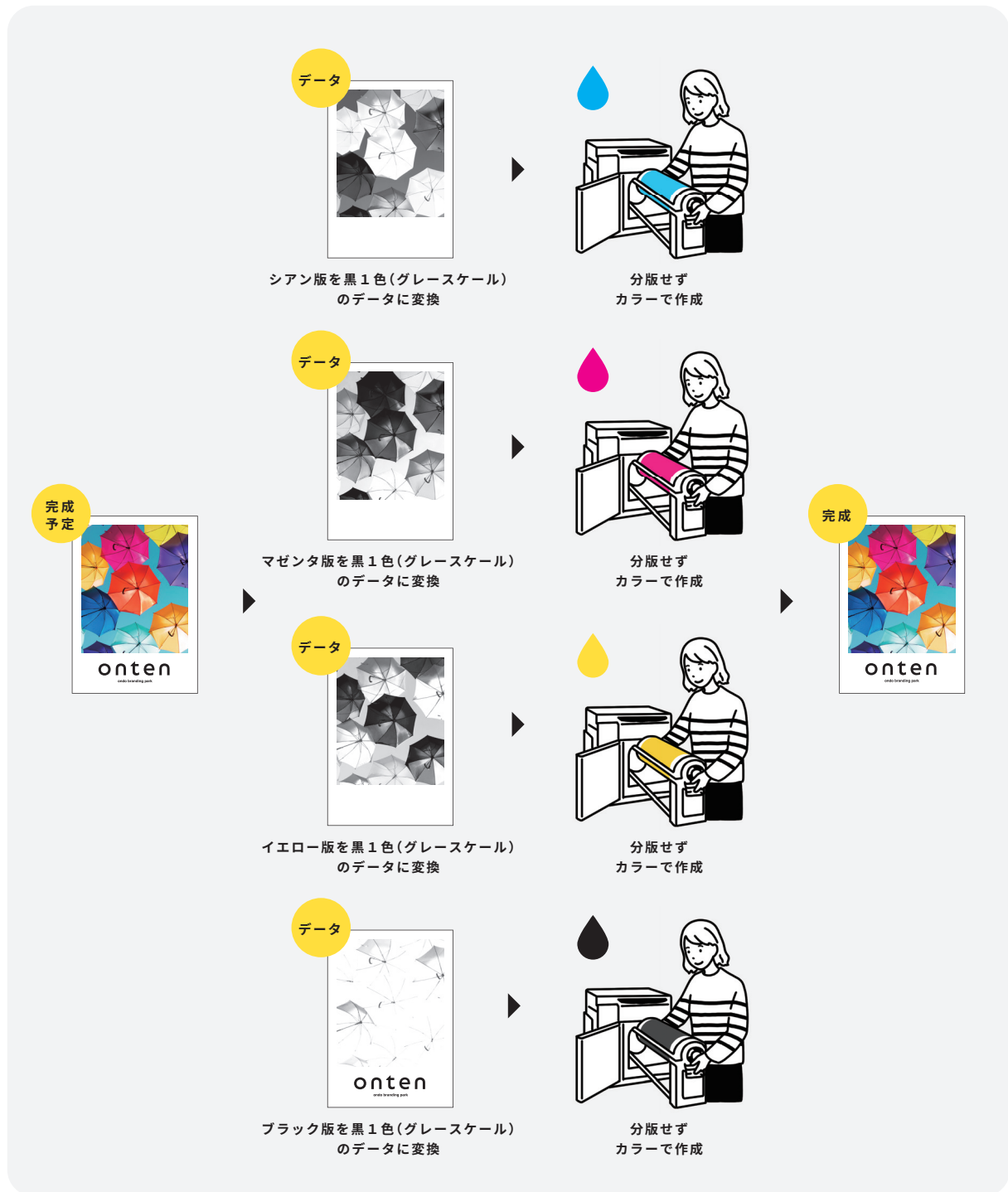
■ 多色印刷の場合



■ 確認しておこう

- ・同じインクであれば、レイアウト内に濃淡が混在していても問題ありません。
- ・1色の印刷でも最大2～3mmの断裁位置ズレが生じます。四辺に枠や、均等に余白を残すデザインは、均等に仕上がりません。
- ・細かいデザインの混色や抜き合わせは、版ズレが目立ちやすくなります。
- ・あらかじめズレを想定して色分けされることをおすすめします。
- ・印刷料金と納期は色数(インクの数)に応じて決まります。納期を短縮されたい場合、色数を減らすことをご検討ください。
- ・印刷面積や色数が多くなる程、紙をリソグラフに通す回数が増えるため、ズレ・汚れなどの仕上がりにリスクが高くなります。
- ・お使いのソフトによっては、変換操作後はカラーに戻せなくなることがあります。
- ・変換前のデータは必ずバックアップを取っておくことをおすすめします。また、変換後のデータはよくご確認ください。
- ・「不透明度」機能で濃度調整を行うと、仕上がりが薄くなる場合があります。なるべく「不透明度」は100%の状態でご入稿ください。

■ 写真などの印刷の場合



■ 確認しておこう

- 同じインクであれば、レイアウト内に濃淡が混在していても問題ありません。
- 1色の印刷でも最大2～3mmの断裁位置ズレが生じます。四辺に枠や、均等に余白を残すデザインは、均等に仕上がりにません。
- 細かいデザインの混色や抜き合わせは、版ズレが目立ちやすくなります。
- あらかじめズレを想定して色分けされることをおすすめします。
- 印刷料金と納期は色数(インクの数)に応じて決まります。納期を短縮されたい場合、色数を減らすことをご検討ください。
- 印刷面積や色数が多くなる程、紙をリソグラフに通す回数が増えるため、ズレ・汚れなどの仕上がりにリスクが高くなります。
- お使いのソフトによっては、変換操作後はカラーに戻せなくなることがあります。
- 変換前のデータは必ずバックアップを取っておくことをおすすめします。また、変換後のデータはよくご確認ください。
- 「不透明度」機能で濃度調整を行うと、仕上がりが薄くなる場合があります。なるべく「不透明度」は100%の状態でご入稿ください。

